

コロナ感染防止対策を充分に採り 第13回定期大会開催!?



全国港湾第三回定期大会は、九月二十九日（火）から三十日（水）にかけて「ホテル シーパレスリゾート」に於いて開催されます。このほど定期大会に提出される議案書（案）が、常任中央執行委員会、中央執行委員会の議を経て作成されました。

提出議案は、「第一号議」にも、労使関係の在り方と機械化に反対する取り組みを進める。以上の視点を「二〇一九年度主要取り組み経過（案）」、「第二号議」により、日港協をして「統一回答」に踏み出す条件（案）、「第三号議案」産別を整理することを重視する。運動の基調では、①継続課題を一つ一つ着実に解決していく年度に、②体制的改善「規約・綱領・規定」の取り扱いについて（案）、「第五号議案」二〇一九年度決算報告案（案）、「第六号議案」二〇二〇年度予算案（案）が提起されています。

運動方針案の二〇二〇年度の取り組みの大前提と基本スタンスでは、第一に、「産別交渉体制の再構築」を前提に取り組みを進める年度とし、「統一回答問題」を法的が提起されています。

第三に、組織強化を通常の取り組みとする。産別協会の強化を、港湾労働者の雇用だけでなく、中小零細な港運事業者の事業基盤を守る取り組みとして位置づけ、行政や大手ユーザーが自論を港湾の自動化に提起されています。

第二に、安全、並びに雇用と職域確保を、あらゆる取り組みの根幹に据え、ユースターと対等に向き合える産別労使協議体制作りを日産の取り組みとして高く評価する。③組織の強化・整備を地域・職場の運動と一体を進める。④ITFに団結した国際連帯の取り組み。⑤国民的課題の取り組み。以上、産別労使交渉体制の堅持と「統一回答問題」の解決に踏み出す方向の追求を大前提に、五本の基調を取り組むことが提起されています。

新型コロナウイルス感染症対策

ホテルシーパレスリゾートでは、お客様ならびに従業員の健康と安全を第一に考え、新型コロナウイルス感染予防及び拡散防止のために下記の取り組みを行なっております。



「消毒液」
 お客様用にアルコール消毒液を館内各所に設置しております。



「マスク着用」
 接客の際にはマスクを着用致します。



「飛沫防止パネル」
 フロントやレストランのカウンターに飛沫防止パネルを設置しております。

＜お客様へのお願い＞



「検温」
 2週間以内に37.5度以上の発熱があった場合はご来館をお控えください。



「マスク着用」
 ご来館時や共有スペースご利用時はマスクの着用にご協力ください。



「手指消毒」
 ご来館時や館内では手指の消毒にご協力ください。



「距離の確保」
 お客様同士のソーシャルディスタンスの確保

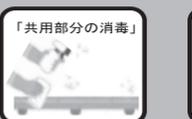
＜館内従業員への取り組み＞



「検温と体調管理」
 出勤時の検温や体調チェック（37度以上の熱や体調が優れない従業員の自宅待機）



「マスク着用」
 勤務中のマスク着用



「共用部分の消毒」
 お客様共用部分（E.V内）手すりなどの定期的な消毒



「距離感」
 従業員同士のソーシャルディスタンスの習慣付け

※体調が優れないお客様はスタッフへお申し出ください。

当館を **安心** してご利用いただくために
 皆様のご協力をお願い致します。

ホテルシーパレスリゾート

厚生労働省が六月に発表した「過労死等の労災補償状況」によると、脳・心臓疾患での過労死八十六件、過労自死八十八件（未遂含む）が労災認定された。このことは二日に一人が認定されている計算となる。死に至らなかった人も含め、過労による健康被害労災認定は七百二十五件と高止まりしていることから、「働き方改革」によって改善されている状況にない。労災申請件数で見れば、脳・心臓疾患はピークだった二〇〇〇年代後半の水準に逆戻りしている。さらに、精神疾患は当時と比べて倍増。女性が半数を占め、若者が多いのも特徴だ。▼精神疾患については新型コロナウイルスの感染で更なる悪化も懸念されている。感染への不安を強く感じたり、リモートワークやオフピーク通勤など、通常とは異なる環境での就労を余儀なくされている状況によって、心理的ストレスも大きい。某団体が行ったリモートワークに関するインターネット調査では、通常勤務よりも長い時間働いていたことが「あった」と答えた人が過半数に上った。通勤を省ける利点がある一方で、長時間労働に陥りがちなことは見落とされがちだ。働く者の健康を守るため、職場の安全衛生委員会などで、現状や課題を話し合うことが必要だ。

シャモ樽

「過労死等の労災補償状況」によると、脳・心臓疾患での過労死八十六件、過労自死八十八件（未遂含む）が労災認定された。このことは二日に一人が認定されている計算となる。死に至らなかった人も含め、過労による健康被害労災認定は七百二十五件と高止まりしていることから、「働き方改革」によって改善されている状況にない。労災申請件数で見れば、脳・心臓疾患はピークだった二〇〇〇年代後半の水準に逆戻りしている。さらに、精神疾患は当時と比べて倍増。女性が半数を占め、若者が多いのも特徴だ。▼精神疾患については新型コロナウイルスの感染で更なる悪化も懸念されている。感染への不安を強く感じたり、リモートワークやオフピーク通勤など、通常とは異なる環境での就労を余儀なくされている状況によって、心理的ストレスも大きい。某団体が行ったリモートワークに関するインターネット調査では、通常勤務よりも長い時間働いていたことが「あった」と答えた人が過半数に上った。通勤を省ける利点がある一方で、長時間労働に陥りがちなことは見落とされがちだ。働く者の健康を守るため、職場の安全衛生委員会などで、現状や課題を話し合うことが必要だ。